

私の
なんとかしなきゃ!

Vol. 24

この空はつながっている

気象予報士 **菅井 貴子**
SUGAI Takako



PROFILE

神奈川県出身。気象予報士として全国各地のNHKや民放番組に出演。現在は北海道文化放送の情報番組「U型テレビ」に出演中。環境やエネルギーに関する出前授業、講演、執筆なども行うほか、防災士、上級ファイナンシャル・プランナーの資格を取得し、気象経済などの分野にも研究を広げている。「なんとかしなきゃ!プロジェクト」著名人メンバー。

科学的データから、未来が予測できる。数学を専攻していた私はそこに魅力を感じ、気象予報士になりたいと思うようになりました。これまで、東京、大阪、福岡、長崎、愛媛、新潟、山梨…、いろいろな土地を渡り歩いて天気予報を担当。“移動距離は日本一の気象予報士”ではないでしょうか。

8年前からは北海道に移り住み、地元の放送局で天気予報を担当しています。実は、この土地の天気は、これまでで一番難しいんです。沖縄より暑くなることもあれば、流水が到来するくらいまで気温が下がる地域もある。正直、頭を悩ませることも多いのですが、気象予報士としてとてもやりがいがあります。

天気は、私たちの生活に大きくかわっています。実際に、近年は地球温暖化の影響で世界各地で異常気象が発生し、日本でもこの夏、豪雨や猛暑日が相次ぎました。そして、その被害を最も受けているのは、開発途上国の人々かもしれません。今

年だけでも、バングラデシュでは6月に降り続いた雨で100人以上が死亡し、インドでは洪水により200万以上の人が家を失いました。さらにブラジルでは50年来の水不足、エチオピアでは水害により農作物が被害を受けています。

こういった自然災害は、ある程度は予測可能です。でも途上国では、その情報を伝えるインフラが十分に整備されていない。だから人々は突然、“予期せぬ”事態に見舞われてしまうのです。

日本は気象衛星「ひまわり」のおかげで台風の接近を事前に把握できるようになり、被害が著しく軽減されています。そう、事前に情報があれば大きな被害は防げるのです。日本の気象予測は最先端。世界に伝えていくべき技術です。

宇宙から撮った雲の写真をみると、そこに国境はありません。低気圧も高気圧も、国を越えてやってくるのです。世界では毎日2回、一斉に気象観測を行って情報を共有しています

ので、一部の国や地域がそれを怠ったり、情報提供をストップすると、世界全体の天気予報の精度が下がってしまいます。湾岸戦争やイラク戦争時には中東の気象データが配信されず、「空白の天気図」となったことも。国際協力を通じて技術を共有し合い、世界が丸となってこの異常気象に立ち向かっていかなければならないのです。

私たちが今、見上げている空はつながっています。世界は一つ。周りで起こっている問題を「なんとかしなきゃ!」と思ったら、身近にできることから始めてみてはどうでしょうか。小さなことでもいい。行動した一人一人の力が集まれば、平穏な空が世界を包むはずだから。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

「なんとかしなきゃ」で